



く 禅語に学ぶく

仏様はどこにいる？

「泥仏不渡水、

神光照天地」

(泥仏水を渡らず、神光天地を照らす)

「泥仏」とは、文字の通り泥で作った
仏様のことです。泥で作られているため、
雨に降られたり水に入れたりしますと溶
けだしてしまいます。

また、「泥仏不渡水」と同じ意味の言葉で、

「金仏不渡爐、木仏不渡火」

(金仏炉を渡らず、木仏火を渡らず)

があります。

これは、金で作られた仏様は炉に入れ
ると溶けてしまい、木で作られた仏様は
火に入れると燃えてしまう、ということ
です。このように、どのようなものを使っ
て仏様を形作ったとしても、何かしらの
ことで必ず壊れてしまいます。

そして、「神光天地を照らす」の「神光」
は、神秘的な光のことではなく、自分の
心の中にある純粹な人間性のことです。

作られた仏像はいつか壊れてしまいま
すが、全ての仏像が壊れてしまった時、
はたして仏教は無くなってしまうので
しょうか。実際のところ、そのようなこ
とは決してありません。なぜなら、仏教
にとって大切なものは、仏像のように形
あるものだけではないからです。

形作られた仏様を拝むという行為は決
して悪いことではなく、何より大切な
は、それと同時に自分の心の中にある仏
様も拝むことなのです。

つまり、真の仏様とは、「あなた自身
の心の中に存在する」ということです。

また、上述したことから、「泥仏不渡
水」は、姿や形にばかりこだわっている
と、ものごとの本質を見失ってしまうこ
とに気づかせてくれます。

私たちの中にも、外見ばかりを気にし
すぎる方がいらっしゃいます。外見ばか

りを気にしすぎるあまり、自分自身や他
の人の本当の姿を見失ってはいませんか
しょうか。

外見を良くするために努力したり、お
金を使ったりすることは個人の自由では
ございますが、それと同様に、自分自身
の内面である心も磨くことをお忘れなき
ようお願い申しあげます。

「泥仏不渡水」は、「本当に大切なもの
は何か」と私たちに問いかけ、気づかせ
てくれる言葉です。見えているところだ
けではなく、その本質に目を向けること
に意識してみましよう。

(禅福 尚玄)

